



1 下地素材(コンクリート・モルタル)はよく乾燥させ、コンクリート、モルタル表面に形成されるレイタンスによる脆弱層や、ホコリ、油分など付着物は完全に除去して下さい。
(気温5℃以下湿度85%以上や天候の悪い場合の塗装は避けて下さい)

※新設コンクリート、モルタル面は、打設後約40日間以上の養生期間をとってpH9.5以下になってから施工して下さい。

2 塗料が着いては困る所はテープやマスキングで養生して下さい。

3 【下塗り】 プライマーHをA液B液共よく混ぜてください。

4 A液とB液を1:1の割合で配合し均一になるようによくかき混ぜます。

5 隅や狭い箇所などは予め目地刷毛などで塗り、ローラーで塗ります。(A液とB液配合後2時間以内に使い切して下さい。)
吸込みムラがある箇所は再度プライマーを塗重ねて下さい。

6 【乾燥】 2時間(23℃)以上乾燥させます。(24時間以内に上塗りして下さい。)

7 【上塗り】 アースフローンをA液B液、均一によく混ぜてください。

8 A液とB液を2:1の割合で配合しエポキシシンナーで0~3%うすめ均一になるようによくかき混ぜます。

10 【乾燥・塗装】 12時間(23℃)以上乾燥させます。48時間以内にもう一度上塗りして下さい。

9 ローラーで塗りのばします。(A液とB液配合後4時間以内に(23℃)使い切して下さい。)

11 【完成】 24時間以上(23℃)乾燥させます。(アースフローンが完全に乾く前に養生を取り除いてください。)

【アース用銅板】

- アース用銅板は、エポキシ系接着剤にて下地に接着して下さい。
- アース用銅板は、歩行の障害にならない、部屋の隅、壁際に必要数を取り付けて下さい。
- 工事は、電気工事となるので資格が必要です。元請けとの打ち合わせにより実施して下さい。

- 気温5℃以下湿度85%以上の場合、また降雨、降雪、強風時および天候不良となる恐れがあるときは塗装を避けてください。
- 溶剤蒸気やスプレーダストを吸引しないように、有機カス甲の防毒マスクなど適切な保護具を着用し、皮膚に触れないようにし必要に応じて保護メガネ、保護手袋長袖作業着を着用して下さい。
- 直接皮膚に触れないように注意して下さい。もし触れた場合、ウエス等で十分に拭き取り、中性洗剤で洗って下さい。眼に入った場合は、多量の水で洗い出来るだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- 良くフタをし子供の手の届かない一定の場所を定め、空気中の湿気と反応しますので、空気が入らないように密栓し冷暗所に保管して下さい。容器は中身を使い切ってから廃棄して下さい。
- 製品安全データシートをよく読んで取扱ってください。
- 必ず適応の下地処理を行ってから施工して下さい。
- 下地のワレ亀裂、段差、凹凸部などはエポキシテーパーやフィラー等にて、平滑になるように処理して下さい。
- コンクリート、モルタル表面に形成されるレイタンス(遊離アルカリ)、エプロセソール(白華)、砂、ホコリ、ゴミ、等は密着不良の原因となる為、ワイヤー付きポリッシャー等で完全に除去して下さい。
- 新設のコンクリート、モルタル面は、打設後約40日間以上の養生期間をとってpH9.5以下になってから施工して下さい。
- 降雨後は、下地が水分を含んでいる為、2日以上十分に乾燥させて下さい。
- 施工時及び施工後の換気を十分に行ってください。
- シーラーと上塗り塗料は絶対に混合しないでください。また、はけ、ローラーなどの共用も避けてください。
- A液とB液は必ず規定の配合比(重量比)で配合して下さい。電動攪拌機で2分以上十分に攪拌して下さい。可使時間は4時間分(23℃)です。A液とB液混合後4時間以内に使い切して下さい。
- 配電盤、変圧室など電気を多量に使用する場所には塗装しないで下さい。
- 下地の吸込み、塗り方で艶ムラを生じることがありますから、ていねいに塗装して下さい。
- 接地(アース)は必ず取ってください。
- 床面に貼り付けたラインテープ等を除去する際に、塗膜が剥がれる場合があります。
- ご使用になる環境を十分に考慮して適正な材料と施工法を決定してください。
- 太陽光の当たる場所では黄変します。又、淡彩色は短時間でも黄変しますので注意下さい。
- アースフローン塗装床に油、樹脂などの異物が付着した場合には、直に取り除き、表面の導電性を保つようして下さい。
- アースフローン塗装床の出入り口には、マット類を敷き、土、砂の侵入を防いでください。
- 表面抵抗値は年2回、このうち1回は、乾燥期に測定するようにして、常に床の導電性に留意してください。
- アースフローンの表面抵抗値は、1.05~1.08Ωです。激しい磨耗、はがれが生じた場合、再塗装するようして下さい。なお再塗装する場合にはメーカーへご相談下さい。
- 塗装条件、環境などにより、塗膜の本来の耐久性が十分に発揮されない場合があります。
- 施工には熟練された技術が必要となります。